

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 5 月 20 日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25381119

研究課題名(和文) 2010年代の日米歴史教科書に表現されるナショナリズムと共生概念との接続の理路

研究課題名(英文) The Logic of the Link between Nationalism and the Concept of Human Coexistence as Represented in History Textbooks of Japan and the U.S. in the 2010s

研究代表者

岡本 智周 (OKAMOTO, Tomochika)

筑波大学・人間系・准教授

研究者番号：60318863

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、2010年代の日米の歴史教科書の内容分析を行い、そこにナショナリズムがいか
に表現され、共生概念とはどのように関連付けられているのか、あるいは差異化されているのかを探索した。また併せ
て、多文化教育論・多文化社会論の動向の把握と分析、並びにナショナリズムと共生に関する社会意識の探索を行った

。学校教育は国民統合の装置であるという点においてナショナリズムを帯びるが、近年の社会的多様性の高まりのなか
では、より広く共生を促す場ともなっている。両概念の接続の理路を析出することによって、学校歴史教育を通して伝
達される社会統合の論理の今日的様相を明らかにすることを、本研究の目的とした。

研究成果の概要(英文)： This study analyzes the contents of history textbooks of Japan and the U.S. in
the 2010s, and explores how they represent nationalism and connect it to, or differentiate it from, the
concept of human coexistence. Furthermore, this study attempts to understand and analyze trends in
multicultural education theory and multicultural social theory, and also seeks to investigate social
consciousness regarding nationalism and human coexistence.

School education in Japan is tasked with propagating nationalism in the country as a device for national
unity, but, amidst rising social diversity in recent years, it has become a venue for encouraging a wider
human coexistence. By dissecting the logic of the link between nationalism and human coexistence, this
study aims to clarify the modern aspects of the logic behind social integration, which is being
transmitted through history education in schools.

研究分野：教育社会学、共生社会学、ナショナリズム研究

キーワード：歴史教科書 ナショナリズム 共生 社会統合 社会意識 歴史教育 多文化教育 共生社会

1. 研究開始当初の背景

教育とは新たな社会成員に対する体系的な社会化であるとするのがエミール・デュルケム以来の教育社会学の基本的な視座である。学校の社会的機能の一つは、人々に文化的同質性を共有させることによって社会それ自体を維持存続させることにある（『教育と社会学』原著 1922 年）。そして現実的には、国民国家が近代社会の形態としての優越性をもったために、学校教育は「国民教育」としての性格を帯びることとなった。歴史教育では国家・国民の単位で歴史を語る「ナショナルヒストリー」の語り口が採用され、日本においても繰り返される歴史教科書論争が端的に示しているように、教科書に反映されるナショナリズムのあり方が常に問題視されてきた。

その一方で、近代の基本的な傾向としての人間の個人化はますます進行し、社会のなかの多様性の承認が要請されるようになったのが現代である。結果として今日の学校教育は、「国民統合」の装置として同化と排除を行いつつも、本来のより広い意味での「社会統合」を行う機関としての性質も強めている。外国にルーツをもつ児童生徒の包摂や、特殊教育から特別支援教育への移行などはその表れであり、すなわち、互いに差異を有する社会成員の「共生」を促す社会的セクターとしての役割が高まっていると言える（拙編著『共生と希望の教育学』筑波大学出版会、2011 年）。

教育内容に関しても、2008～2009 年の学習指導要領改訂では「生きる力」の意味の一つとして「共に生きる力」という概念が掲げられ、社会科系の科目においては「持続可能な社会」の理念と併せて「共生」が重視されるようになった。共生概念が具体的な知としてどのような形をとり得るのかは社会的に重要な論点となっているが、そうしたなかで、教育的知識における「共生」の具体的な表現や論理についてもその詳細な検討が求められていると言える。

申請者は 2001 年度以来、複数の科学研究費課題を通して、日米の歴史教育内容に表現される社会統合の論理に関する研究を進めてきた。とりわけ 2010～2012 年度に行った科学研究費研究では、日本の歴史教育内容においては 2000 年代に入ってからなお、「ナショナルヒストリー」の語り口が根強く採用されていることが把握できた。国家・国民単位で語られる歴史像が段階的社会化のいかなる部分に寄与し、いかなる部分でそうではないのかを論理化したことが、申請者の最近の研究の成果である（拙共著『学校教育と国民の形成』学文社、2012 年）。

ただし、加えて、歴史教科書における情報の多様化・精緻化は 1990 年代以降に確実に進行しており、教科書が社会のなかの多様性を伝えようとする度合いは高まっている。また、高校世界史教科書においては、歴史を伝

達するための諸概念自体が近代の産物であることを説く近代主義的な歴史叙述の視座が用意されつつもある。そして、こうした語り口の変容はアメリカの歴史教育内容にいち早く指摘できるものであった。2006～2009 年度に申請者が行った科学研究費研究では、社会の多様性を表現する情報の増加が 1960 年代以来のアメリカの歴史教科書の改版を貫く基軸となっていること、また、それに伴う「多様性の尊重」と「凝集性の確保」の理念の比重の変化が、歴史像の変容に帰結していることを示した（拙著『歴史教科書にみるアメリカ』学文社、2008 年）。

このような歴史教育の新たな情報や視座が 2010 年代以降の教育的知識として広く定着するか否かは、引き続き検討される必要があると言える。折しも、日本では改訂された学習指導要領に基づく歴史教科書が中学校では 2012 年度から、高校では 2013 年度から使用され始めた。アメリカにおいても、政権交代を経て、2001 年の 9.11 テロやその後の政治動向を対象化できる社会状況となった。そこで、本研究では、2010 年代の日米の歴史教科書内容の分析を行い、そこに表現されるナショナリズムと共生概念との接続の理路を析出することとした。それによって、学校歴史教育を通して伝達される社会統合の論理の今日的様相を明らかにすることを、本研究の目的とした。

2. 研究の目的

(1) 2013～2015 年度の間、2012～2014 年に刊行された日本の中等教育用歴史教科書の内容を旧版との異同に着目しつつ分析すること、2010 年代に刊行されたアメリカの歴史教科書の内容を、先行研究が指摘した 2000 年代までの教科書の特徴と比較分析すること、またアメリカの多文化教育論・多文化社会論の今日的動向を把握・分析すること、「ナショナリズム」と「共生」に関する社会意識の調査・分析を行うこと、の 3 つを研究の大きな柱とした。

考察の焦点としては 2 つのポイントを設定した。その第 1 は、新たな歴史教科書のなかでナショナリズムがいかに表現され、またそれが共生概念とどのように関連付けられているのか、あるいは差異化されているのかを探索することである。そして第 2 に、学習者が学習を通して内面化する世界観・社会像に対して、両概念がもつ意味を把握することである。

これらの作業を通して、多様性の増大する社会を統合する論理を析出することとなった。

(2) 歴史教育内容の検討は、教育社会学のみならずカリキュラム研究や文化社会学でも主題化されるようになったが、対象データの網羅性に留意した研究は、管見の限り英語圏においても多くは無い。本研究は、2001 年度

の科学研究費研究の成果として刊行した拙著『国民史の変貌』（日本評論社、2001年）で採用した、主要な教科書の改版に伴う経年変化を通時的検討によって把握するという方法を踏襲することによって、教科書内容の変化の網羅的な把握を行い、データとなる教材の恣意的な選定という問題の克服を意図した。

また、21世紀に入ってからの日米の社会状況には「右傾化」が指摘され、そのような観点に基づく教育社会研究も多く行われている。しかし日米社会はともに、一方ではなお社会の多文化化を不可避に経験し続けている社会でもある。単純な保守主義への回帰はそもそも不可能な状態にある。そこでは「多様性の尊重」と「凝集性の確保」を同時に満たす思想が模索されつつあると言え、本研究はその把握を目的とした。

3. 研究の方法

(1) 本研究は大きく分けて3つの主要課題を設定し、それぞれの作業の方法は以下のものとなる。

[課題] 2012～2014年に刊行された日本の中等教育用歴史教科書の内容をデータベース化し、分析する。 歴史教科書のカリキュラム分析

[課題] 2010年代に刊行されたアメリカの中等教育用歴史教科書の内容をデータベース化し、分析する。 歴史教科書のカリキュラム分析

[課題] 「ナショナリズム」と「共生」に関する社会意識を調査し、分析する。 社会意識調査

これらの作業を進めるにあたって、2013年度には主として「歴史教科書資料の収集とデータベース化」を、2014年度には「歴史教科書資料の分析」および「社会意識調査の実施と結果の解析」を、2015年度には「総合的な分析」を想定した。

その他の課題として、文献研究により、アメリカの多文化教育論・多文化社会論の今日的動向の把握と分析を行った。また、ナショナリズムおよび共生社会に関する近年の議論を、学校教育との関連で整理した。これは総合的分析のための基礎作業とした。

(2) [課題] については、東京書籍や清水書院等から刊行されている中学校社会科歴史教科書、および山川出版社や実教出版等から刊行されている高等学校日本史・世界史教科書を入手した。

[課題] については、教科書の自由採択が行われているアメリカの歴史教育現場で最も広範に、かつ版を重ねて長年使われている10点の歴史教科書の2010年代以降の版を可能な限り多く入手した。

次にこれらの教科書における情報を、カリキュラム分析の「ストーリーライン分析」に供するためにデータベース化した。個々の教

科書から歴史事象についての記述を抜粋し、その知識内容の時系列的变化を一覧できるようにした。これによって、2010年代の日米の歴史教科書に生じた歴史叙述の変化を確定し、その変化の意味を検討した。

[課題] については、成人の社会意識の把握を目的とする「共生社会に関する調査」（ウェブ調査、回答者数は2000）および高校生の社会意識の把握を目的とした「高校生のコミュニティとの関わり合いに関する調査」（学校調査、回答者数は1633）を実施した。

(3) データの検討に当たって留意したのは、社会における「多様性の尊重」と「凝集性の確保」の同時性を焦点化することである。多文化主義思想に関しては社会諸科学全般に亘って膨大な先行諸研究が存在するが、その多くにおいては、多文化主義を「多様性を称揚するために分離主義的傾向を帯びるもの」、あるいは「新たなる同化主義の論理に回収されるもの」とする見方がなされてきた。しかし21世紀の社会的現実には、それら矛盾する考え方の止揚を試みる動きを見ることがもできる。本研究はその点に着目し、現在の歴史教科書に表現される社会統合の論理の複雑性を理解するという方法論を採った。

4. 研究成果

本研究は、日米の歴史教科書の内容分析を行い、そこにナショナリズムがいかにか表現され、共生概念とはどのように関連付けられているのか、あるいは差異化されているのかを探索するものである。

(1) 2013年度は、主として以下の3つの課題を設定して研究活動に取り組んだ。日本の歴史教科書の収集と内容分析。アメリカの歴史教科書の収集とデータベース化。共生社会意識を把握するための社会調査の実施。

については、2008-09年の学修指導要領改訂を受けて刷新された中学校歴史教科書7点、高校日本史教科書6点、高校世界史教科書13点を収集した。これらの教科書は中学校では2012年度から、高校では2013年度から使用が開始されたものである。これら計26点の歴史教科書を資料とし、それぞれを旧版と比較することによって内容の変化を確定し、歴史叙述の更新がもたらす意味を検討した。

については、研究代表者のこれまでの研究において主たる検討対象としてきた10点の歴史教科書の2010年以降の版を入手した。教科書内容のデータ化は日本の教科書の扱いと同様の方法で行い、知識内容の時系列的变化を確定した。

これらの作業によって、日米の歴史教育について議論される際の主だった論点に関わる情報を確保した。検討作業の成果は、その一部を2013年7月に刊行した著書『共生社

会とナショナルヒストリー』(勁草書房)において発表した。

(2) 2014年度は、主として以下の3つの課題を設定して研究活動に取り組んだ。日本の歴史教科書の収集と内容分析。アメリカの歴史教科書の内容分析と、多文化教育論・多文化社会論の動向の把握。共生社会意識を把握するための社会調査の結果の解析。

については、2014年から使用が開始された高校日本史教科書15点を収集・分析した。これらを資料とし、「日本人の起源」「倭国」「天皇と日本」「国風文化の条件」「国民の創出」「四民平等」「学制」「日中共同声明」「村山内閣」「国旗・国歌法」「歴史認識問題」の諸項目についての記述のデータベースを作成し、ウェブサイトにて公開した。そのうえでこれらの記述を旧版のそれと比較分析し、歴史叙述の更新がもたらす意味を検討した。

については、前年度に入手しデータ化を行った教科書記述の検討を進め、知識内容の時系列的变化を確定した。併せて、アメリカの多文化教育論・多文化社会論の動向に照らした分析を行った。この作業によって、日米の歴史教育について議論される際の主だった論点に関わる情報を確保した。検討作業の成果は、その一部を2014年10月に刊行した共著書『「ゆとり」批判はどうつくられたのか』(太郎次郎社エディタス)において発表した。

については、前年度に行った「共生社会に関する調査」「高校生のコミュニティとの関わり合いに関する調査」の分析を進め、それぞれの報告書を発行した。そのなかで共生社会意識とナショナリズムとの関連性、および教育経験がもたらす影響について検討した。

(3) 研究の最終年度となる2015年度は、これまでの調査と分析で得た知見をまとめ上げることに主眼をおき、以下の3つの課題を設定して研究活動に取り組んだ。日本の中学・高校歴史教科書の内容分析の展開。共生社会意識調査の結果の解析。研究課題全体に関する総合的な考察。

については、前年度までの作業で確定した歴史教科書内容のデータを用いて、新旧の歴史教科書の記述を比較分析し、歴史叙述の更新がもたらす意味を検討した。その成果として、2016年4月刊行の共編著『共生の社会学 ナショナリズム、ケア、世代、社会意識』(太郎次郎社エディタス)所収の論文「歴史教育内容の現状と、伝統の学び方のこれから」を発表した。

については、前年度までに行った社会意識調査の結果の分析を進め、共生社会意識とナショナリズムとの関連性を検討した。その成果として、『共生の社会学』所収の共著論文「共生」に関わる社会意識の現状と構造」を発表した。

については、「共生が要請される時代のナショナリズム」について総括的考察を行った。3年間に亘る本研究活動全体の成果は、『共生の社会学』の全体的な論旨に反映されることとなった。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計9件)

Tomochika Okamoto, "On Interpreting Society through Changing Texts," *Journal of Educational Research for Human Coexistence* 5, 査読無, 2016年, pp. 27-36.

<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/mylimedio/search/magazine.do?target=local&bibid=1525766>

岡本智周「歴史教育内容の現状と、伝統の学び方のこれから」『共生の社会学 ナショナリズム、ケア、世代、社会意識』岡本智周・丹治恭子編、太郎次郎社エディタス、査読無、2016年、pp. 40-63.

ISBN: 978-4-8118-0792-8

坂口真康・岡本智周「共生」に関わる社会意識の現状と構造」『共生の社会学 ナショナリズム、ケア、世代、社会意識』岡本智周・丹治恭子編、太郎次郎社エディタス、査読無、2016年、pp. 224-241.

ISBN: 978-4-8118-0792-8

岡本智周「小島文英著『ミャンマーの社会科学』」『教育社会学研究』97、査読無、2015年、pp. 173-175.

<http://ci.nii.ac.jp/naid/40020676079>

佐藤博志・岡本智周「書評に込めて『「ゆとり」批判はどうつくられたのか』」『教育社会学研究』97、査読無、2015年、pp. 190-191.

<http://www.gakkai.ne.jp/jses/2015/12/04172706.php>

岡本智周「現代高校生における共生社会意識の諸特徴」『高校生のコミュニティとの関わり合いに関する調査 2013-14年調査報告』岡本智周・坂口真康編、筑波大学共生教育社会学研究室、査読無、2015年、pp. 11-24.

<http://iss.ndl.go.jp/books/R100000002-1026093118-00>

岡本智周「書評に込めて『共生社会とナショナルヒストリー』」『ソシオロジ』181、査読無、2014年、pp. 125-128.

<http://ci.nii.ac.jp/naid/40020264456>

岡本智周「共生社会」という言葉の認知について 調査の概要と分析の焦点」『共生社会に関する調査 2014年調査報告』岡本智周・坂口真康編、筑波大学人間系研究戦略委員会、査読無、2014年、pp. 6-16.

<http://iss.ndl.go.jp/books/R100000002>

-I026037913-00
坂口真康・島埜内恵・岡本智周「日本の国際化に対する認識の検討 ―マイノリティ支援に対する認識との関連―」『共生社会に関する調査 2014年調査報告』岡本智周・坂口真康編、筑波大学人間系研究戦略委員会、査読無、2014年、pp. 66-80.
<http://iss.ndl.go.jp/books/R100000002-I026037913-00>

〔学会発表〕(計9件)

岡本智周「歴史教科書知識の現在地と、伝統の学び方のこれから」第5回教育の歴史社会学コロキウム、2015年2月28日、於・電気通信大学(東京都調布市).
岡本智周「文献検討『「ゆとり」批判はどうつくられたのか：世代論を解きほぐす』」大塚学校経営研究会月例研究会(指定討論)、2014年12月13日、於・筑波大学(東京都文京区).
岡本智周「歴史教科書問題の構造と、近代主義的国民観のための資源」早稲田大学文学学術院・社会構築 土曜講演会、2013年11月23日、於・早稲田大学(東京都新宿区).
<http://www.f.waseda.jp/wienmoto/Japanese/Lesson/KouchikuMorisemi/MC09.html>
岡本智周「教科書が表現する歴史認識の過去・現在・未来」関西大学人権問題研究室・研究学習会、2013年10月11日、於・関西大学(大阪府吹田市).
<http://www.kansai-u.ac.jp/hrs/lecture/study.html>
岡本智周「変動するテキストから社会を読み解くことについて」第65回日本教育社会学会大会・課題研究「文学的想像力と社会的想像力」2013年9月22日、於・埼玉大学(埼玉県さいたま市).
<http://ci.nii.ac.jp/naid/110009732758>

〔図書〕(計5件)

岡本智周・丹治恭子編『共生の社会学 ナショナルリズム、ケア、世代、社会意識』太郎次郎社エディタス、2016年、全272頁(9-15, 40-63, 88-93, 173, 223-241, 263-266).
ISBN: 978-4-8118-0792-8
岡本智周・坂口真康編『高校生のコミュニティとの関わり合いに関する調査 2013-14年調査報告』筑波大学共生教育社会学研究室、2015年、全188頁(1-24, 171-185).
<http://iss.ndl.go.jp/books/R100000002-I026093118-00>
岡本智周・坂口真康編『共生社会に関する調査 2014年調査報告』筑波大学人間系研究戦略委員会、2014年、全100頁(1-16, 65-99).
<http://iss.ndl.go.jp/books/R100000002-I026037913-00>

佐藤博志・岡本智周『「ゆとり」批判はどうつくられたのか 世代論を解きほぐす』太郎次郎社エディタス、2014年、全192頁(13-94, 166-191).
ISBN: 978-4-8118-0778-2
岡本智周『共生社会とナショナルヒストリー ―歴史教科書の視点から』勁草書房、全218頁、2013年.
ISBN: 978-4-326-65382-9

〔その他〕(計2件)

ホームページ等
岡本智周「2010年代の日米歴史教科書に表現されるナショナリズムと共生概念との接続の理路(資料編)」日本学術振興会科学研究費助成事業(課題番号: 25381119)資料、2015年2月.
<http://ubiquitous.image.coocan.jp/JPN2014/index.htm>
岡本智周「共生社会を視点に歴史認識に迫る」筑波大学ホームページ「TSUKUBA FUTURE #041」(筑波大学広報室サイエンスコミュニケーターによる記事)2015年5月.
<http://www.tsukuba.ac.jp/notes/041/index.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

岡本 智周 (OKAMOTO, Tomochika)
筑波大学・人間系・准教授
研究者番号: 60318863